

第2章 景観の現況と課題



琵琶沼(平鹿地域)



新緑の山内黒沼(山内地域)

1. 横手市の概況

横手市は、秋田県の県南地域に位置し、県内第2の人口規模を有する都市です。市域は、東西45.4km、南北35.2kmに広がり、総面積は693.04k㎡となっており、東に奥羽山脈、西に出羽丘陵の山々を要し、中央部には横手盆地の平野が広がっています。

市の基幹産業は農業であり、その生産基盤となる田園地帯が横手盆地に、そして東西の丘陵地には果樹園が広がっています。

気候は、日本海側地域特有の夏は比較的高温多湿、冬は低温多雪で、盆地であることから一日の気温格差が大きく、風はあまり強くないという特徴があります。特に横手盆地は全国有数の豪雪地帯として知られており、「かまくら」は横手市の冬を代表する伝統行事となっています。

市内を通るJR奥羽本線・北上線によって秋田・東北両新幹線の利用が可能で、約4時間で首都東京と結ばれています。また、国道13号と国道107号が横手地域内で交差し、平成9年には秋田自動車道が東北自動車道と接続され、秋田市・北上市ともに45分で結んでいます。さらには、横手ジャンクションを介して湯沢横手道路(将来、東北中央自動車道)が秋田自動車道と交差しているほか、国道342号と397号が東に走り岩手県一関市・奥州市方面と結ばれており、横手市は県下でも有数の交通の要衝となっています。

横手市には、市内全域には多くの遺跡が点在し、およそ1万4千年前の旧石器時代から、人びとの暮らしが営まれてきたことを伝えています。現在のような田園風景は、奈良時代に律令国家がこの地に平鹿郡を造ったことにより、その基礎が確立されました。平安時代には、奥州藤原氏の平泉文化へと連なる、後三年の合戦(役)(1083~87年)がこの地域を舞台に繰り広げられ、その史跡や伝説が多く遺されています。中世以後の横手は小野寺氏が治め、江戸時代には横手に秋田藩の城代が置かれ、常に県南の中心地域として発展してきました。明治以降は幾多の町村合併を経て、平成17年10月1日に、横手市・増田町・平鹿町・雄物川町・大森町・十文字町・山内村・大雄村の8市町村の合併により、秋田県で第2の都市となりました。

人口については、国勢調査で見ると、横手市の人口は昭和55年以降減少傾向にあり、平成22年の人口は98,367人で、平成17年と比較して約5%、約5千人の減少となっています。また、少子高齢化が進行しており、横手市における65歳以上の高齢者割合は、県平均を若干上回っています。

■位置図



■人口の推移



2. 景観資源の整理

(1) 自然系景観資源

自然系景観資源とは、山・河川・湖沼・滝・緑地・農地などの基本的な景観の骨格を形づくり、地域特性に多大な影響を与える自然系資源を言います。

横手盆地の中央に位置する横手市は、東の奥羽山脈、西の出羽丘陵の山々に囲まれており、奥羽山系に源を発する成瀬川と皆瀬川が合流した雄物川及び横手川が貫流しています。そして、山麓に広がる果樹園や盆地に広がる広大な農地とともに、美しい田園景観を醸し出しています。丘陵地に整備された横手公園・金沢公園・大森公園・真人公園などは、周囲の自然と調和して美しい自然景観の創出に寄与しているとともに、平野部の美しい田園景観を眺望することができます。

また、南西の方角に見える鳥海山の眺めは、市民に親しまれる景観となっています。

市内には河川のほか、湧水地や池沼なども多く、美しい水辺の景観も多くあります。雄滝・雌滝・不動の滝などの滝もあり、横手市で唯一名勝として文化財に指定されている景勝地、滝ノ沢では、コケに覆われた岩棚を高さ5メートル、幅10メートルの滝が白糸のように流れ落ち、滝に垂れた樹皮が四季に趣を添えます。湧水地の自然をそのまま生かした白藤清水自然公園なども整備されています。

このほか、天然記念物に指定されている浅舞のケヤキ、八沢木の銀杏の木台の大銀杏、筏の大杉なども美しい自然景観形成に寄与しています。



■ 田園と山並み（増田地域）



■ 横手川（横手地域）



■ 大松川ダム（山内地域）

(2) 歴史・文化系景観資源

歴史・文化系景観資源とは、遺跡・建築物・伝統芸能・寺社・古道・集落など、自然状況等を踏まえた、過去の社会・経済やまちづくりの状況等の歴史的な流れを伝えてくれる歴史・文化系資源を言います。

旧石器時代から人々の暮らしが営まれてきた横手市には、国指定の文化財である波宇志別神社神楽殿、大鳥井山遺跡をはじめ、多くの歴史・文化的景観資源があります。奥州藤原氏の平泉文化へと連なる後三年の合戦（役）は、この地域を舞台として繰り広げられ、関連する多くの史跡や施設があります。また、明治に作られた旧日新館や赤レンガ蔵などもあります。

このような歴史を今に伝える街並みも多く残っています。例えば、横手地域の羽黒町・上内町地区では、昭和62年に「横手市山と川のある景観のまちづくり条例」に基づく「まちづくり申し合わせ事項」が締結され、住民主体の景観づくりが進められ、平成13年まで実施された「街なみ環境整備事業」により街並みが整備され、かつての武家町の趣きが残っています。

増田地域の増田地区では、内蔵を含む街並みが歴史的景観として残っているほか、各地域においても、古くから知られている神社・仏閣などが存在し、歴史の趣きを感じることができます。

特に、増田地区では市街地の一部が平成25年12月に文化庁から重要伝統的建造物群保存地区に選定され、その後、平成26年9月には、保存地区とその周辺地域の住民たちがまちづくり協定を締結し、住民主導による景観形成の気運が高まっています。

また、水神様をまつる小正月行事として約400年以上の歴史があると言われる「かまくら」は、横手市の冬を代表する景観を創出し、市の内外から多くの観光客が訪れています。



■増田地区の街並み（増田地域）

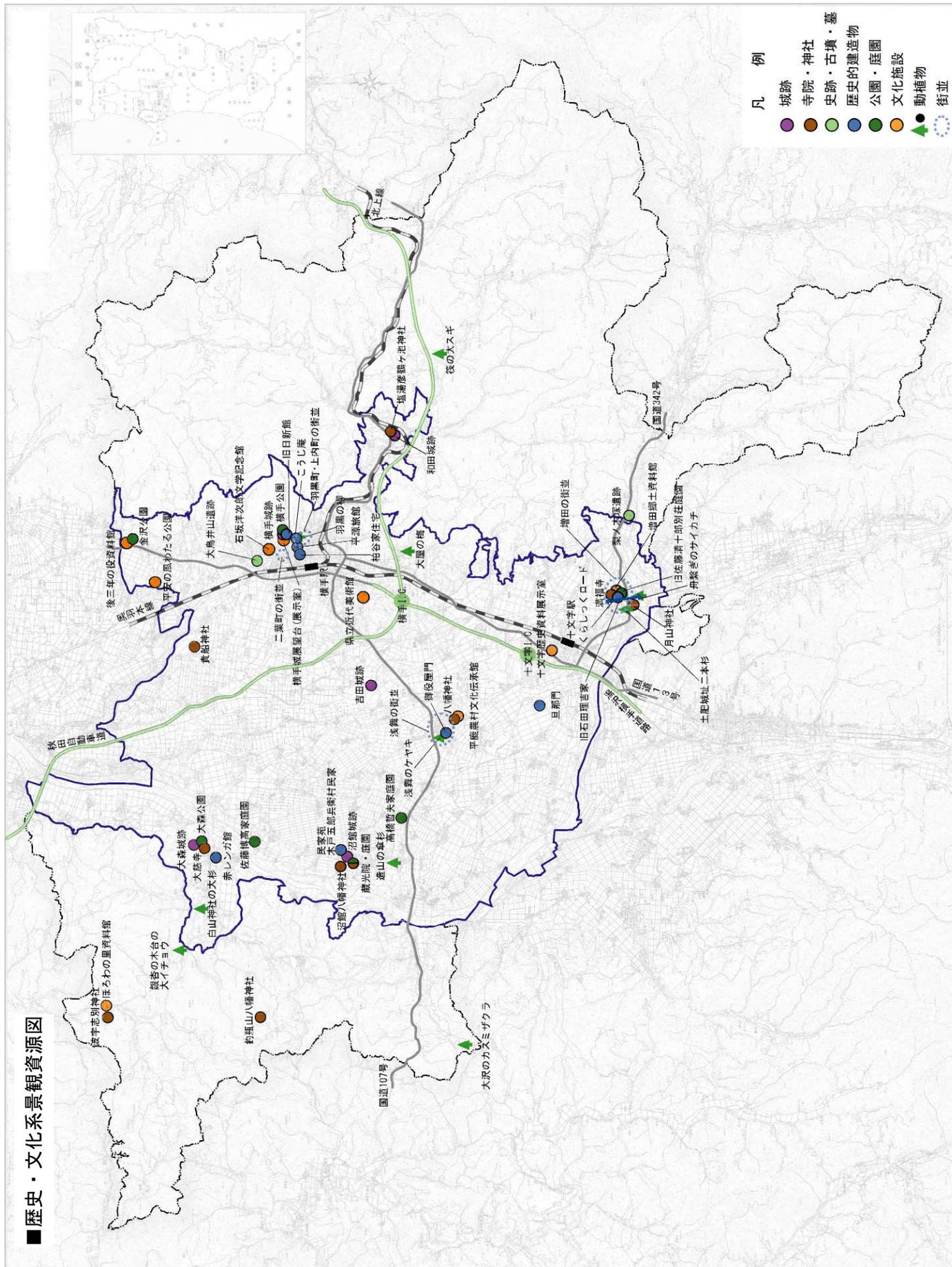


■羽黒町・上内町地区の街並み（横手地域）



■赤レンガ蔵（大森地域）

■ 歴史・文化系観資源図



- 凡 例
- 城跡
 - 寺院・神社
 - 史跡・古墳・墓
 - 歴史的建造物
 - 公園・庭園
 - 文化施設
 - 動植物
 - 街並